
ショートショート「あなたの預金を増やします」

有沢翔治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ショートショート「あなたの預金を増やします」

【Nコード】

N8613S

【作者名】

有沢翔治

【あらすじ】

お金の増えるアプリを見つけて幸せになろうとするが……。

本当に色々なアプリがあるなあ。と思いながら僕は画面をぼんやりと眺めていった。操作にもなれ、そろそろアプリを落とそうかと思いはじめたのである。

「あなたの預金を増やします」というアプリを見つけ、僕は苦笑した。胡散臭さを絵に書いたようだ。どうせ有料なんだろう。そして、お金を集めるだけ集めて作ったヤツは消えちまう。インターネットに限らず、この手の詐欺はあるんだなあ。でもアプリの値段を見てみると無料と書かれている。これなら話のネタにちょうどいい。翌日アプリのことなんてすっかり忘れて、銀行に行くと僕は目を疑った。残高が二倍になっていたのである。次の日にはまた二倍……。お金を増やすアプリからちゃんと振り込まれていたのである。なにかがおかしい、と思いながらも強引に自分に言い聞かせた。まず、六本木あたりに引っ越して、毎日銀座で上手い寿司を食べて……。と妄想を膨らませながらバーに入る。前祝いにぱーっとやるう！

酒を何本空けたか解らない。大虎になって、会計を済ませようと一万円札を取り出そうとする。

「お客様、申し訳ありません」

それを見て、バイト店員が頭を下げた。

「なに？ お釣りのないの？ そしたらお釣りは全部やるよ。何せ今から僕は大金持ちだ。一万円なんてあつという間に……」

人生の中で一回は言ってみたかった台詞である。ささやかな優越感に浸りながら次の店員の答えを待っている。バイト店員はもしもじしながら、

「いえ、違つんです」

と言うと、今にも消え入りそうな声で言った。

「もう一万円札はただの紙切れになつたんです。今はいくら積み上

げてもチロルチョコ一つ買えませんよ……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8613s/>

ショートショート「あなたの預金を増やします」

2011年8月21日03時31分発行